

放置自転車減少に向けた取り組みを

自由民主党議員団 吉原 宏



放置規制区域化により、放置自転車の減少が見込まれるが、その一方で、規制区域外の隣接箇所では放置自転車が増えている地域がある。区内全体の放置自転車減少に向けた取り組みについて区長の考えは、

区 長 規制区域外の隣接箇所については、放置防止指導、長期間放置自転車の撤去のほか、状況により、規制区域の見直しも行い、

放置自転車撤去の際は、商店会等へ事前相談を。放置規制区域内の商店などでは、客の自転車まで撤去されるのではとの心配の声がある。撤去実施日時を関係町会や商店会と相談して実施してはどうか。

区 長 撤去日時などの

事前相談は、撤去を行うとただ放置しないといったことがおきる可能性があり、行っていないが、撤去作業の際には店舗に声かけを行うなど配慮している。

中野駅地区における自動車駐車場の整備方針は

中野駅地区に整備予定の自動車駐車場に、杉山公園地下自転車駐車場と同様の円筒式地下駐車場を導入する予定はあるか。

区 長 中野駅地区整備基本計画で、新北口駅前広場の地下に自動車駐車場を整備する予定だが、設置ス

後見人の監督や助言ができる独立した組織体制が必要では。③後見人が司法書士や弁護士などの場合、申立手数料に加え、報酬が必要になる。低所得者に対し助成すべきではないか。

西武新宿線連続立体交差化で活力あるまちづくりを

公明党議員団 南 かつひこ



①沼袋駅の地下化で、駅の存在感がなくなると懸念されるが、ランドマークとしての機能をどのように考えているのか。②鉄道上部空間を活用し、駐輪場にすべきでは。③沼袋商店街通りの主幹10号線を拡幅し、都市計画道路にするのか。

④歩行者空間の安全確保のため、電線類を地中化するべきでは。⑤沿線まちづくりの一環として、西武新宿線の各駅前を路上喫煙禁止地区に指定すべきでは。

区 長 ①鉄道事業者や地域に働きかけ、まちの玄関口にふさわしい景観の形

成年後見制度の充実を図れ。①これまで、市民後見人養成講座の必要性を述べてきた。昨年度区長は、実施時期を考えていくと答弁していたが、進捗よく状況は、

②市民後見人には、自治体のサポートが不可欠である。

ペースなどを勘案し、自走式の形態を検討している。子ども手当の対象者数と今後の区の対応を示せ

中野区における子ども手当支給対象者数、及び申請不備や未申請者に対する今後の対応は。

区 長 今年度の対象者数は、約1万9千世帯、約2万8千人と想定している。申請不備の方については、随時電話及び文書により書類の再提出をお願いしている。また、未申請の方へは7月初旬及び8月下旬に申請手続きの奨励のお知らせを送付する予定である。

後見人の監督や助言ができる独立した組織体制が必要では。③後見人が司法書士や弁護士などの場合、申立手数料に加え、報酬が必要になる。低所得者に対し助成すべきではないか。

区 長 ①今年度から実施の社会福祉協議会への委託事業と都の基礎講習を活用して、今年度中に2名養成する予定である。②区の補助事業として社会福祉協議会で行う「アシストなかの」の後見監督業務の中で実施する。③平成20年度に区長申立により後見人を選定した場合の補助制度を整備した。今後は、社会情勢を勘案しながら、事業内容の見直しを検討する。

ホテル復活事業の継続を

江古田の森公園では、平成20年度より事業を開始し、3年間で自然羽化を目指している。①過去2年間の成果は。②多くの区民がホテルの飛翔を楽しみにしている。人工飼育の手法も考え、事業を継続すべきでは。

区 長 ①昨年度は、1日最大50匹程度を10日以上確認できた。ヘイケボタルの自然繁殖が課題である。②3年間の経過をトータルにとらえ、この事業の評価を検証していく。

地域支えあいネットワークの区の取り組みは

自由民主党議員団 伊東 しんじ



①20年10月に「(仮称)地域支えあいネットワーク構築に向けた3か年重点プロジェクト」が示された。これを推進し区民や協力機関へ情報提供することで、支えあい活動の理解や協力は得やすくなる。この進捗よく状況や区民への説明状況はどうか。②この制度の成否には、協力者のインセンティブが重要だ。その一つである「支えあいポイント制度」の検討状況は。

区 長 ①全体としてはすこやか福祉センターの開設など、概ね計画通りに進んでいるが、地域と行政との情報提供・共有の仕組みなど、遅れているものもある。説明は、元気でネット協働員会議などで行っているが、今後は全体的な進捗よく状況の報告などを区民へ行っていきたい。②23年度実施に向け検討している。

①21年度の助成結果をみると、活動領域により申請件数や交付率などにばらつきが生じている。特に子育て領域は、需要は高いが助成額平均は他より低い。22年度の助成総額はこうした分析を行って配分したのか。②昨年度に比べ助成総額が20%減額された。財政難による一律削減は慎むべきである。また、申請時に過去の事業分析の記載を求めるとの過重な申請事務は改善されるべきではないか。



すこやか福祉センター交流コーナー

区 長 ①活動領域間の適正化に努め、採点基準の明確化などを行い改善した。②予算額の縮小は、限られた予算をより効果的、効率的に執行するため判断した。また、申請時の軽減は、手続き全体を改めて点検し、簡素化に努めていく。

中野駅整備にあたっては南口にも目を向けた開発を

自由民主党議員団 内川 和久



区長は施政方針説明で、中野駅整備と合わせた駅の北口、南口の具体的なまちづくりの協議・調整の推進をうたっている。先行する北口だけでなく、きちんと南口にも目を向けて、駅周辺の開発を進めなければならぬと思うがどうか。

区 長 グランドデザインでは、中野駅周辺の中でも南口地区を、文化活動拠点、文化発信拠点として描いている。北と南、異なるまちの個性の連携により、価値を高め、まち全体のポテンシャルを高めたい。

第九中・中央中の統合は、利便性高く魅力あるものになる。九中・中央中の統合は、26年度の新設開校に向けて、順調に進んでいると聞く。①南側の生徒が、早稲田通りまで出ずに通学できるように、対策をとるべきではないか。②24年度から新しい校区に変更すると聞くが、統合校が九中の場所にある2年間は、柔軟に指定校変更ができるようにすべきではないか。③新設南側隣接の国有地を公園として整備すれば、新校の魅力

の1つとなる。国が売却方針を決めた場合、取得に向けて努力すべきではないか。教育長 ①新設南側に通学に利用できる門を設置し、利便性や安全を確保する。②弾力的な取り扱いにより、変更を認め、新設舎移転後も通学できるようにする。

区 長 ③公園用地として取得し、学校の教育環境を向かせる魅力、公園機能を向上させたいと考えている。

桃園川緑道の放置自転車・オートバイ対策を

桃園川緑道は、通勤や通学、散歩やジョギングコースとしても使われ、季節の花々が咲く癒しの空間として管理されている。ただ残念なことに、自転車やオート

ご利用ください

●声の区議会だより
目の不自由な方のために、区議会だよりを朗読録音したカセットテープ「声の区議会だより」を発行しています。郵送により無料でお届けします。利用をご希望の方は、区議会事務局(電話3228-5585)まで。
また、地域センター、区立図書館、障害者福祉会館などで貸し出しもしています。視覚障害者の方へお知らせください。

